

健康機器/化粧品

●Healthy apparatus/Cosmetics



日本珪素医科学学会、第43回学術発表会に100人 天然シリカ水の中に“結晶質”散見で警鐘

日本珪素医科学学会による第43回学術発表会が2月21日、名古屋市内で行われ、会員など約100人が参加した。

九州工業大学准教授の城崎由紀氏は、「ケイ素を含む有機-無機複合体の組織再生足場材料としての応用と分解物の役割」と題し講演。冒頭、城崎氏は、神経細胞高齢社会を迎えた日本では、医療材料の必要性が増す中、体内に入れ、組織として取り込まれる物が求められているとした。

そこで、無機物のセラミックスやシリカを含むバイオガラス、有機物のPDMSやキトサンを用いた新たな多孔質複合体による足場材料を開発し、神経組織、頭蓋骨、靭帯等の再生に関して実践中の研究の一端を紹介した。

今後は、出発組成と原料を変えて作製した複合体による抽出溶液中のケイ素化学種の構造特定や、細胞内におけるケイ素化学種の働きを解明等を通じ、組織再生足場材料への応用を目的としたケイ素を含む材料設計指針の確立を目指して、研究を続けていくと述べた。

富山県立大学准教授の立田真文氏は、「市販シリカ水の実態調査—シリカ製品の選び方と非晶質の重要性—」と題し講演。立田氏はこれまで、シリカの安全性は非晶質である点を強調してきた。今回の講演では、結晶質か非晶質かに一切触れられていない市販の天然シリカ水を買上げ、結晶質か非晶質かの実験を行った結果を発表した。

実験は、天然水中のシリカ含有量が元々少ないため、500mLのPETボトル72本分を、



シリカの物性が崩壊しない程度の約300℃で湯煎して乾燥し、残ったシリカを計測した。

その結果、計測した31銘柄

中、13銘柄で結晶質であるクリストバライト、トリディマイト、石英のいずれか、または全てが検出された。傾向としては九州を採水地とする製品に結晶質の含有が多かったといい、なかには大手メーカーの製品も見られたとした。

結果を受け立田氏は、「結晶質はアスベストと同様に発がん性物質であり、非常に危険だ。シリカが入っていれば良いということではない」と述べ、「シリカは非晶質でないと安全でかつ効果もない」と改めて警鐘を鳴らした。

この他、高木動物病院院長の高木謙氏は、FIV抗体陽性の雑種メス猫（13歳）に対し、慢性症状からの脱却を目指して実践中のSiPt（珪素）療法に関する進捗状況を報告した。



富山県立大 立田准教授